

# 要介護高齢者の食を支える口腔ケア推進のための北九州市の取り組み 第1報

加賀美由旗<sup>1,2)</sup> 白木裕子<sup>1,3)</sup> 川崎節子<sup>1,4)</sup> 松本恵美<sup>1,5)</sup>

NPO 法人ケアマネット21<sup>1)</sup> 恵友会ケアプランステーション<sup>2)</sup> 榊フジケア<sup>3)</sup> ケアプランハッピーハウス<sup>4)</sup> 小倉医師会ケアプランセンター<sup>5)</sup>

北九州市では平成24年度から「要介護高齢者の食を支える口腔ケア対策事業」が始まり、ケアマネジャーが口腔ケアの意義や重要性の理解を深め、かかりつけ歯科医や歯科医療機関との連携が促進されるよう様々な取り組みを行っている。今回、ケアマネジャーを対象に行ったアンケート調査の結果、かかりつけ歯科医の把握はしているが連携には至っていない現状が明らかになった。また口腔ケアに関する知識向上を目的とした研修参加への意識が高い反面、口腔アセスメントの自信は低い結果であった。今後、歯科と介護の連携強化のためには、かかりつけ歯科医とケアマネジャーが相互に役割を理解し、相談の窓口として認識し合うことが必要であると考えます。

## I 研究目的

要介護高齢者のケアマネジメントにおける口腔ケアや訪問歯科診療の実態を調査し、今後の歯科と介護の連携促進、口腔ケアの普及・促進を図る上での課題を明らかにする。

## II 研究方法

北九州市の指定居宅介護支援事業所に勤務するケアマネジャー563名を対象に郵送にて調査票を配布し、278名より回答を得た。(回収率49%)

アンケートは「要介護高齢者に対する口腔ケアの状況」「歯科に関する在宅歯科医療、介護保険サービスの知識」「ケアマネジメントにおける歯科との連携」「歯科に関する研修の実態」の4項目30問により構成され、ケアマネジャーの基礎職種、実務経験年数、事業所の所在地域により $\chi^2$ 検定を行った。

## III 研究結果

利用者からの口腔ケアに関する相談は「ある」88.1%で、相談された相手は本人68.7%配偶者44.9%であった。ケアマネジャーがかかりつけ歯科医を把握しているかは、「全て把握している」「半分ぐらい把握している」が71.9%に対し、かかりつけ歯科医との連携は「とれている」「概ねとれている」が39.6%と実際の連携は半数程度となっている。連携のきっかけは、利用者の口腔内の状況が変わった時が一番多く、相談先はかかりつけ歯科医39.9%、営業に来ている訪問歯科専門の事業所スタッフ23.4%であった。訪問歯科診療の相談窓口が、各区の歯科医師会にあることを知っているのは52.5%で半分は知らない状況であった。

在宅歯科診療や口腔ケアについての研修会参加は57.9%で、今後の研修内容として、口腔内のアセスメ

ント、在宅歯科医療や口腔ケアに関する医療・介護保険制度に関する情報提供の要望が高かった。

基礎職種別には、「居宅療養管理指導はケアプランの限度額以外にサービス提供事業所が請求できることを知っているか」の項目のみ有意差が認められた。

## IV 考察

今回の調査で、口腔ケアに対しての意識は基礎職種別に違いがないことがわかった。参加したい研修会の内容からも、口腔ケアに関する専門的な知識の習得と口腔アセスメント力が不足していることを多くのケアマネジャーが認識していることが明らかとなった。歯科と介護の連携強化にあたっては、かかりつけ歯科医とケアマネジャーがお互いの役割を理解すると共に、通院や訪問歯科診療で治療がシームレスに提供できるシステムの構築が不可欠である。また、ケアマネジャーが口腔に関するアセスメント力を高めるためには北九州市が作成した「要介護高齢者のお口のみかたマニュアル」等を活用できるよう啓発を続ける必要があると考える。その際には、ケアマネジャー向けをケアマネジャーだけでなく、各サービス事業所との共通マニュアルとして、チームで口腔機能向上を図ることが不可欠であると考えます。